

## 地域福祉に関するボランティア（個人）アンケート集計表

対象者	調査時期	配布・回収方法	通知数	回収数	回収率
本会登録ボランティア	令和3年12月	郵送による発送・回収	41 通	32 通	78.0%

### 問1 あなたの活動内容を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

	回答	割合
福祉に関すること（児童・母子福祉、高齢者福祉、障がい者福祉、その他社会福祉など）	27	84%
健康に関すること（健康づくり、医療づくり）	5	16%
防犯・防災に関すること（交通安全・防犯、防災、消費者問題など）	4	13%
環境保全に関すること（自然環境保護、清掃・美化、公害防止、リサイクルなど）	5	16%
教育に関すること（教育、生涯学習、文化・芸術の振興スポーツ、人権、青少年の育成など）	9	28%
まちづくりに関すること（産業振興、都市づくりなど）	1	3%
その他 （老人施設での関わり、コロナ禍の前は環境保全や教育に関するボランティアをやっていたが今は何もしていない）	4	13%
無回答	1	3%

サンプル数=32

### 問2 あなたの活動圏域を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

	回答	割合
下戸田地区（喜沢、喜沢南、中町、下戸田、下前、川岸1～2丁目）	17	53%
上戸田地区（本町、南町、戸田公園、川岸3丁目、上戸田、大字上戸田）	18	56%
新曽地区（大字新曽、新曽南、氷川町、大字下笹目）	6	19%
笹目地区（笹目北町、笹目南町、早瀬、笹目）	2	6%
美女木地区（美女木、美女木東、美女木北）	0	0%
市内全域	4	13%
その他（都内、川越市、蕨南町、出演依頼や大会出場等地方）	5	16%
無回答	1	3%

サンプル数=32

**問3 あなたがボランティアを続ける上で最も重要と考えるものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）**

	回答	割合
他人や社会のために役に立ちたいから	21	66%
自分の技能や能力、経験を活かしたいから	16	50%
余暇を有効に過ごしたいから	12	38%
友人がいるから	6	19%
活動に興味があるから	18	56%
介護予防になるから	9	28%
つながりづくりになるから	12	38%
自分の生きがいのため	17	53%
その他（ ）	1	3%
無回答	0	0%

**サンプル数=32**

**問4 あなたが活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）**

	回答	割合
支援を必要とする人の情報が得にくい	11	34%
他のボランティアと交流する機会が乏しい	9	28%
活動の場所（拠点）の確保が難しい	3	9%
活動資金が足りない	0	0%
どんな活動をすればよいかわからない	2	6%
その他〔具体的に：体力の衰え同じ活動をする仲間が欲しい、時間が足りない、忙しい、新しい人材が足りない、持続可能な活動をするためには有償の活動が多い方がよい〕	5	16%
特に困ったことはない	9	28%
無回答	3	9%

**サンプル数=32**

**問5 あなたは社協から声かけがあったときに、今の活動以外の分野でも、活動したいですか。（1つに○）**

	回答	割合
積極的に活動したい	9	28%
活動してみたいと思う 理由：）今は時間的に余裕があり体力的にもまだ大丈夫と思うので、自分の出来る活動があればやります。	13	41%
活動してみたいが難しい 理由：孫の支援、難しいのではなくその時の自分の体調や用事などがある場合があるが声掛けはしてほしい、体力の衰え（特に視力、聴力）を感じるようになった、視覚障害のため忙しい、今後介護も増えそう、健康上の問題、コロナ禍後所属団体の活動が始まるのでスケジュールが多すぎると困るから、高齢者となりました、今は残念だが時間が足りない。）	11	34%
無回答	0	0%

**サンプル数=32**

**問6 問5で「1. 積極的に活動したい」、「2. 活動してみたいと思う」と答えた方のみお答えください。どんな活動を始めてみたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）**

	回答	割合
福祉に関すること（児童・母子福祉、高齢者福祉、障がい者福祉、その他社会福祉など）	14	64%
健康に関すること（健康づくり、医療づくり）	8	36%
防犯・防災に関すること（交通安全・防犯、防災、消費者問題など）	8	36%
環境保全に関すること（自然環境保護、清掃・美化、公害防止、リサイクルなど）	8	36%
教育に関すること（教育、生涯学習、文化・芸術の振興スポーツ、人権、青少年の育成など）	8	36%
まちづくりに関すること（産業振興、都市づくりなど）	6	27%
その他	0	0%
無回答	1	5%

**サンプル数=22**

**問7 ボランティアセンターからの情報提供は十分だと感じますか。（1つに○）**

	回答	割合
十分である	9	28%
どちらかといえば十分である	17	53%
あまり十分でない	5	16%
十分でない	1	3%
無回答	0	0%

**サンプル数=32**

**問8 「3. あまり十分でない」、「4. 十分でない」と回答した方のみ、どのような情報提供が必要ですか。（情報提供の方法、情報の内容等）**

**（1）情報提供の方法**

	回答	割合
SNS（Twitter、Facebook、Instagram など）	1	17%
ホームページ	3	50%
メール	2	33%
その他（具体的に：誰に話したら聞いてもらえるのか、テレビ など）	2	33%
無回答	1	17%

**サンプル数=6**

**（2）情報の内容**

	回答	割合
ボランティア団体の活動状況	5	83%
活動の場に関する情報	4	67%
助成金情報	0	0%
その他（具体的に：）	0	0%
無回答	0	0%

**サンプル数=6**

**問9 ボランティアセンターに求める支援は何ですか。（あてはまるものすべてに○）**

	回答	割合
活動上必要な情報の提供	20	63%
活動場所の提供	13	41%
ボランティア同士の交流の場の提供	15	47%
設備・備品の充実	4	13%
成果の発表の場の提供	6	19%
その他（ ）	0	0%
特になし	2	6%
無回答	1	3%

**サンプル数=32**

**問10 地域や生活の困りごとについて、あなたが耳にすることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）**

	回答	割合
こども、子育てに関すること	9	28%
障がいに関すること（身体・知的・精神等）	14	44%
高齢、介護に関すること（認知症・見守り等）	23	72%
人権、家庭内暴力に関すること	4	13%
健康、医療に関すること	15	47%
就労、経済的な事項に関すること	4	13%
防災、防犯、交通安全に関すること	10	31%
福祉に関する情報提供に関すること	11	34%
その他（具体的に：女子の貧困について）	1	3%
無回答	3	9%

**サンプル数=32**

**問11 あなたは日常生活の中で起こる問題に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。（1つに○）**

	回答	割合
自分たちの生活に関わることから、できるだけ住民同士で協力して解決したい	10	31%
地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに任せておきたい	1	3%
住民と行政の協働で解決したい	20	63%
行政に解決してもらえるように要求したい	3	9%
その他（その時々で異なる。基本は住民同士で解決しそれが困難な時は行政等に）	2	6%
無回答	1	3%

**サンプル数=32**

**問12 あなたは、いわゆる「8050 問題※」など、一つの相談支援機関だけでは解決できない人や制度の狭間にある人を支援につなげるためには、どのような仕組みづくりが必要だと思いますか（〇は3つまで）**

※8050 問題とは 高齢の親が長期間ひきこもる子どもと一緒に暮らし（80 歳代の親と 50 歳代の子の親）生活面、経済面を含め支援している状態のこと。家族や本人の病気、社会的孤立等、複数の課題が背景にあると言われています。

	回答	割合
地域コミュニティの育成と支援	11	34%
どのような相談もまるごと受け止める体制の整備	14	44%
支援を必要としている人の早期把握	17	53%
福祉に関する相談窓口の周知	6	19%
相談支援機関と地域住民、地域の関係者（民生委員や児童委員等）との連携	13	41%
多様な活動団体、ボランティア等が協働で支援する仕組み	13	41%
相談支援機関や地域福祉活動の担い手を対象とした研修会の開催	6	19%
その他	0	0%
無回答	0	0%

**サンプル数=32**

**問13 お住いの地域で、日常生活を送るうえで心配な方や、困っている方がいたら、あなたにできることは何ですか。（あてはまるものすべてに〇）**

	回答	割合
見守りや声かけ	28	88%
話し相手	20	63%
日常生活上の手伝い（電球の交換、買い物、ゴミ出し、通院等）	17	53%
草取りや庭の掃除	8	25%
食事作りやおすそわけ	8	25%
学校や保育園、通所施設の送り迎え	8	25%
短時間の子どもの預かり	6	19%
災害など緊急時の手助け（安否確認、避難所への誘導など）	15	47%
その他（介護事業所のお手伝い等）	1	3%
特にない	0	0%
無回答	1	3%

**サンプル数=32**

**問14 あなたは、子どもからお年寄りまで、誰もが住みやすいまちづくりを推進していくにあたり、行政や社会福祉協議会ではどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇は3つまで）**

	回答	割合
福祉に対する意識の向上	5	16%
情報発信の工夫	11	34%
地域福祉活動の担い手の確保	14	44%
顔の見える関係づくり	13	41%
地域福祉活動の支援	5	16%
地域の様々な活動主体のネットワークづくり	6	19%
困りごとを抱えた人が適切な支援につながる体制づくり	18	56%
誰もが安心できる環境の充実	4	13%
地域の防災力の強化	4	13%
権利擁護の推進	0	0%
地域生活課題の複合化・複雑化への対応	10	31%
社会的孤立、制度の狭間の問題への対応	0	0%
無回答	5	16%

**サンプル数=32**

## 問15 地域福祉推進についてご意見・ご要望等、ご自由にお書きください。

・新型コロナウィルスのため、ボランティア活動がとまってしまい、ボランティアをしていた方が、自分自身が生き生き元気だったと感じます。人のためにボランティアだけでない自分のためと良くわかりました。

・私の町会は、以前住んでいた方がいなくなり、古い家がこわされ、新しい家ができ、若い人が見られるようになりましたが、声をかける機会も無く、ふれあいがありません。姿はみかけますが顔がわからないので、すれ違った時も声掛けができません。コロナ以前も町会でのふれあい行事がなくなり、盆踊りの抽選会も年寄り参加しなくなりました。年寄り若い住人がふれあえる何か良い方法はないものでしょうか？町会の活動にもマンネリ化がみえてきました。

・自信のあった体力面が傘寿を過ぎ衰えだした感があり、何とかお世話される側に回らないよう、現状維持を図るべく、ウォーキング等定期的に体を動かしたい。現在休止中の社会的弱者への予防面での活動を続けたい

・先日フードボランティアの仕分けに参加しました。この企画は困っている家庭向けですので、同時に新曽中学校や公民館では生理用品を保健室で無料で配っていると宣伝して欲しいです。よろしくお願いします。

・お年寄りや、恵まれない子供たちについてボランティアを通し心の助けになりたい。

・ボランティアの高齢化が問題。若い世代が活躍できる仕組みや場所

・行政と社会福祉協議会との共生。地域でできることはあるが、手伝って欲しいと声を出せないのでは。

・何か所かボランティア活動をしていましたが、コロナウィルスですべて中止やら解散で終わりました。

早く以前のような時代が来ることを願っています。早く活動したいと思います。

・孤立を防ぐため、声掛けを心がけるが、認知ぎみなことをみつけても、本人が人に知られたくない（特に近所の方に）とこもりがちになったり、福祉を受けることをこばみ、ご家族でかかえこむ方がみえるので、包括へ行くまでの手助けをしたいと思います。

・世代によって活動（生活）時間が違い、地域の人たちが集ったり、協働したりできる機会がほとんどないです。ボランティアも一部の人たちがやっている印象なので、もっと参画しやすい活動があればいいなと思います。困っている人はたくさんいるはずなので、何かアクションすることで、少しでもいい社会になればいいですね。

・次代を反映しているのか、地域のおつき合いが少なくなり、ほんのちょっとしたお手伝いも声がかけてくれない状況があります。このアンケート用紙の「Ⅳ」を読み大変参考になりました。もちろん行政にもがんばっていただきたいのですが、今すぐ普通の市民ができることに着手しないと、生活上の困難は自分自身で引き受けることになりそうです。高齢者として心配はつきません・・・。今般、貴社会福祉協議会のボランティアセミナーに参加させていただき、とても勉強になりました。日頃のご努力に感謝申し上げます。

・日常生活を送る中で、見慣れた顔が周りにいてくれることはどの世代においても安心で心強いはずである。そんな小さな輪を広げて大きく繋げたら理想だと思う。活動できる人が無理なく、自分のペースで社会参加しやすくする為には（認知症やデイ参加者も含めて）有償ボラやワーカーズ組織等がもっと増えたら、やりやすいのではと考えている。

・困っている人、助けを求めている人が気軽に情報発信出来るように成ること。助けたいと思っている人が気軽に手助けする事が出来る社会に成ればと思います。

・学校教育での福祉科目の導入

・地域福祉活動を中心となって担う人材や団体に対する行政や企業の支援が重要と考えます。AIでは出来ない分野こそもっと「本職」として活動できる体制にして行けば、人材はたくさんいるはず。持続可能な支援には中心となるキーパーソンはボランティアでは限界があります。支援する人の支援について行政からのサポートがあればもっとひろく推進すると考えます。

ご回答ありがとうございました。